NEWS LETTER

発行：水資源・環境学会

NEWS LETTER　No.83

2021年4月28日

2021年度 水資源・環境学会
第37回研究大会のご案内

大会テーマ：
「持続可能な開発目標（SDGs)から見た流域環境保全」

【開催日時】
2021年6月19日（土）　　14時～16時30分
【開催方法】　　Zoomにて開催
【参加登録】
以下のサイトから6月17日までに登録してください。
https://zoom.us/meeting/register/tJMqde2tqTojGdFPxpnmmozEKoU712kcb5aE
【参加費】　会員は無料。 非会員は1,100円（税込み）
参加登録後、非会員には、参加費の振り込み先を通知しますので、振り込みをお願いします。振り込み後、招待URLを送ります。
【問合せ先】　学会事務局 info@jawre.org

目　次

2021年度 第37回研究大会のご案内 1
2021年度総会のご案内
2021年度 研究大会プログラム 研究大会発表要旨 2
2021年度 研究大会発表会ご案内 3
2020年度 冬季期研究会報告 4
2020年度総会報告 5
事務局からのお知らせ 新学会長就任 学会誌原稿募集等 7

昨年の2020年度水資源・環境学会第37回研究大会は、大会テーマを「持続可能な開発（SDGs)から見た流域環境保全」として、大阪学院大学で6月に開催する予定でした。しかしながらコロナ禍により中止を余儀なくされました。本年もコロナ禍は依然終息せず、ここで何らかの方法で開催をと研究企画委員会で検討を重ね、またテーマも1年遅れたと言え、昨年の大会テーマは今もって、流域環境保全を考えるうえで重要であるとの結論に達し、今回、同テーマでzoom開催する運びとなりました。

後述のように、学会NEWS LETTER No.81（2020年5月15日）に大会テーマの解題が記されています。国内を見渡しますと、流域の人口減少や気候変動などによりその管理は一層困難になっており、持続可能な流域の環境保全を検討することは喫緊の課題です。三者協働による流域の社会と環境の健全な保全と創造に向けて、活発な議論を行いたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

研究大会実行委員長　三輪信哉（大阪学院大学）

2021年度　水資源・環境学会総会のご案内

[日時]　2021年6月19日　16時30分～17時30分

[場所]　研究大会と同じZoomサイト

[議題]　2020年度事業報告、決算、監査報告、2021年度事業計画、予算、規約改正

☆☆研究大会プログラム☆☆

13：45～　Zoomの参加許可を準備

開会挨拶（趣旨説明）

14：00～14：05　三輪信哉（大阪学院大学）

基調講演

14：05～15：00　「「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の実現のためのSDGsと流域環境保全（仮題）」　渡邉紹裕（熊本大学）

パネルディスカッション

15：00～16：25

司会　仲上健一（立命館大学名誉教授）

パネリスト：　渡邉紹裕（熊本大学）
原田禎夫（大阪商業大学）
高橋卓也（滋賀県立大学）
企業パネリスト（タイガー魔法瓶㈱　依頼中）

閉会挨拶

16：25～16：30　仲上健一（立命館大学名誉教授）

なお、本研究大会では、懇親会は行われません。

2021年度　研究大会　発表要旨

【基調講演】

「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の実現のためのSDGsと流域環境保全（仮題）

渡邉紹裕　熊本大学特任教授
（くまもと水循環・減災研究教育センター）
京都大学名誉教授・特任教授（防災研究所）

国連の持続可能な開発目標（SDGs）は、2015年9月の第70回国連総会で採択された「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」（アジェンダ2030）で謳われ、「17のゴール・169のターゲット」という形で示される実現の目標です。SDGsは、近年では、その実現が「世界的な共通認識」のように受け止められるようになっているが、その意義ある実現を目指すためには、改めてアジェンダ2030の基本理念に立ち返ってみる必要があるのではないかと考えています。また、複数のゴールやターゲットにおける相互関係や、他の具体的な課題に対応するための目標や対策とのシナジー（共便益）やトレードオフ（相反関係）なども、きちんと整理しておく必要があります。こうした視点でSDGsを見直し、その枠組みで「流域環境保全」を考えるために、疑問と課題を改めて整理してみたい。

【パネルディスカッションに向けて】

仲上健一（立命館大学名誉教授）

水資源環境学会NEWS LETTER No.81に案内されているように、研究企画委員会による本大会の研究大会テーマの解題は、下記のとおりでした。

「流域は、一定のまとまりのある自然・生態系空間です。ここは古来、秩序ある循環作用があり、安定していました。しかし、近年、気候変動、流域環境の管理困難、人口減などの影響を受け、流域にある水、森林、土地などの自然資本の荒廃、地域コミュニティ崩壊といった流域環境・社会の存続にかかわる危機に直面し、流域全体の活力減退の遠因になっています。例えば、自然災害の広域化や頻発化、森林の放置、若年層の人口流失があります。

流域が抱えてきた、こうした多岐にわたる問題を解決する模索が続けられるなかで、持続可能な開発目標（以下、SDGsという）が、2015年9月、国連総会で採択され、2030年に向けた行動目標が世界に発信されました。SDGsは、17の行動目標が提唱されていますが、本大会では、関連が深い目標６「安全な水とトイレを世界中に」（水と衛生）と目標15「陸の豊かさを守ろう」（陸域生態系）に焦点をあてます。そして、これら二つの目標を通して見えてくる、流域環境保全の現状と問題にかかわる報告を受け、問題情報を共有して、解決すべき課題を明らかにしたいと思います。さらに、浮かび出てきた課題

をふまえ、流域社会を支え、支えあう、住民と企業と行政とのパートナーシップに基づく、今後の健全な流域環境保全や流域創造につながる方向性を、皆さんとともに議論し、まとめたいと考えています。

本解題に従って、熊本大学　くまもと水循環・減災研究教育センター特任教授　渡邉紹裕理事には、長年の農業土木の研究蓄積をベースに基調講演として「「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の実現のためのSDGsと流域環境保全」をいただく。

パネリストとして、原田禎夫理事（大阪商業大学）：河川ごみ問題対策にみる市民協働の展開～社会的営業免許の観点から～、高橋卓也理事（滋賀県立大学）：流域社会で支える森林管理の可能性に加わっていただき、企業関係として(依頼予定)にご参加いただくことになっています。

SDGｓに関する全国アンケート調査（自治体向け）結果(内閣府地方創生推進室、「地方創生に向けたSDGｓの推進について」、2021年 2月)では、「地方創生SDGs達成に向けて取り組みを推進されていますか？」という問いに対して、「推進している」と回答した自治体は2018年度9%、2019年度19.5%、2020年度54.59%です。この増加は驚異的です。

地方創生の最後の切り札として地方自治体においてもSDGsが注目され、とりわけ自然環境を重視する流域環境保全に関心が高まっている。本パネルディスカッションでは、これらの話題提供をベースに、SDGs実施指針である「実施のための主要原則」の「普遍性」、「包摂性」、「参画性」、「統合性」、「透明性」を軸として、SDGsと流域環境保全のあり方を討議します。

Zoomという水資源・環境学会としては初めての試みですが、SDGsの17のゴール・169のターゲットが標榜する地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」の精神は、改めて水問題に深刻な課題を提起している。会員諸氏の積極的なご参加をお待ちします。

2021年度　研究大会発表会のご案内及び研究発表募集

2020年の年初より始まったコロナ禍は、諸学会の活動に大きな影響をあたえました。本学会でも、予定していました冬季研究会、研究大会、夏季現地研究会を中止することになりました。しかしながら、会員の皆さまの研究活動の成果を発表する場や、水資源・環境の現場での実践と課題と知見を学ぶ機会の提供は、学会の本質的な使命であり、変わることがありません。

今年度は、研究大会を２回開くことになり、「研究大会発表会」（以下、発表会という。）は、2021年6月に開催する「研究大会」と別日程になりますが、会員の皆さまの自由論題による研究発表とします。

繰り返しますが、発表会は、これまでと異なり、自由論題のみとします。発表は、水資源・環境にかかわる研究であれば、分野を問いません。大学や研究所の研究・教育者だけでなく、実務家や一般市民の応募を含め、多分野で活躍されている会員による研究発表を歓迎します。

研究発表会では、水資源・環境の枠を超え、未来に向けての知の水平線を広げるため、多様で幅広い研究発表を通じて、会員相互の柔らかな思考・発想の増進と触発、専門分野の深化を促し、実り多い成果につながることをねらいとしています。

ここに、会員の皆さまに下記のとおりご案内しますので、どうぞ奮って応募していただくとともに、参加していただきますよう、お願いします。

開催日　：2021年8月28日（土）午後
実施方法：Zoomによるオンライン研究発表

【研究発表の応募方法】

発表タイトル、発表者名（複数の場合は発表者名に○）、所属先、概要（400字程度）を記載して、学会事務局info@jawre.orgにメールで応募してください。応募受付後、プログラムを作成し、発表時間等をお知らせします。

応募期限：2021年6月30日（水）

【発表会の参加方法】

発表会の参加登録については改めてお知らせします。事前に登録をお願いします。非会員も有料で参加できるようにします。

【発表要旨の提出】

発表要旨：A4版、4ページ（所属・氏名を含むが、発表者には、氏名の前に〇を付与。）
提出締切日：2021年7月31日（土）
予稿集：発表要旨は、分野別にまとめ、予稿集を作成し、発表会当日までに学会HPに公開。
送付・問合せ先：学会事務局（info@jawre.org）

2020年度冬季研究会報告
テーマ：「コロナ禍での海洋プラスチック汚染を考えるーポスト・コロナ社会での水環境保全への提言に向けてー」

伊藤達也（法政大学）

3月13日15時から2時間、水資源・環境学会の冬季研究会が開催されました。テーマは「コロナ禍での海洋プラスチック汚染を考えるーポスト・コロナ社会での水環境保全への提言に向けてー」。基調講演は原田禎夫会員（大阪商業大学）、基調講演を受けてマクティア・マリコ氏（Social Innovation Japan 共同創始者）からコメントをいただきました。

原田会員は京都府亀岡市を中心にプラスチック汚染問題、プラスチックレジ袋の規制問題等を研究し、かつ実践的に活動されている方です。そうした貴重な知識、経験を踏まえながら、世界のプラスチック問題、日本のプラスチック問題等を概括的かつ具体的に講演していただきました。特に河川流域から排出されるプラスチックが海洋プラスチック汚染の元凶になっていること等、水資源・環境学会としても積極的に関わっていくべき視点を明確に示され、シンポジウムが大変活発な議論で充満したことを報告させていただきます。

一方、コメンテータとして発言されたマクティア・マリコ氏はSocial Innovation Japanの共同創始者で、現在、mymizu（無料給水アプリ）の普及に努めています。mymizuは水道水を見直す画期的な取り組みで、こうした運動が現在、わが国で進められていることを筆者は司会をしながら初めて知りました。そして、シンポジウム後、さっそくアプリを携帯に入れさせていただいた次第です。シンポジウム参加者からも大変好意的に受け止められ、多くの質問が提出されました。

以下では簡単に討論の内容を紹介します。まず、プラスチック問題では、プラスチックの廃止が論点になりました。プラスチック汚染問題は大変深刻で、その点ではプラスチックの利用制限、最終的には使用停止が望まれる一方、プラスチックがここまで社会に普及したのはプラスチックの利便性が非常に高いことでもあります。利用停止を叫ぶことは簡単ですが、一方でプラスチックから得ている利便性を他の物質で代替できるのか、そもそもプラスチック汚染の深刻さをどのくらい理解しているか等についても議論は広がりを見せました。そして、こうした状況において、研究者が視野に置くべきは、プラスチック被害の適切な把握と、一方ではプラスチックを利用する上でのメリットの適切な把握、そしてその比較でしょう。これらの科学的な把握と適切な政策への適用が強く求められていると思いました。

こうしたプラスチック利用と水問題との関わりの中で論点となったのがペットボトルの利用に関してです。瓶、缶、紙容器等様々な容器がある中で、ペットボトルがその使用をますます増加させている状況において、決して強制的ではなく、私たちの意識変革の中で可能なのが、我が国の優れた水質を誇る水道水の復権であり、その一つの策が、マクティア・マリコ氏が主導するmymizu（無料給水アプリ）の普及です。これまでも都市公園の水道の蛇口のように、私たちがアクセスしようと思えば簡単にできた水道蛇口の所在を教えるだけでなく、都市内のお店等でも水道水が提供される、またそうした地点を簡単に検索できるmymizu（無料給水アプリ）運動は、いわゆる環境運動にありがちな強制やお仕着せ的要素がなく、非常に使い勝手の良い手段であると思われます。

シンポジウムでは評価的な意見が多くを占める中で、例えば、「提供される水の温度管理はどうなっているか」等の質問が出されました。現在、日本人は水道の水をそのまま飲むという行為を止めつつあります。筆者はその大きな理由として、「水の温度管理の失敗」があると思っています。夏の暑い時、すぐ隣に水道の蛇口があったとしても、やはりより冷えた飲料水を飲みたいのが多くの人の気持ちではないでしょうか。また、冬の寒い時は、水道の蛇口から出てくる冷たい水ではなく、より温かいお茶や飲料水を飲みたいのが実際ではないでしょうか。そうした「水の適切な温度管理」がなされれば、mymizu（無料給水アプリ）運動は飛躍的な発展を遂げる気がするし、また、温度管理に失敗すれば、一部の普及にとどまってしまうのではと思った次第です。水道水が「安全な水」であることは間違いなく、それを「安心な水」さらには「おいしい水」へと評価を変えていくための重要な論点として提出させていただき、シンポジウムのまとめとさせていただきます。

最後に、シンポジウムでは大変多くの質問、意見が出されたのにもかかわらず、全ての質問、意見を披歴できなかったことをお詫びいたします。

水資源・環境学会 2020年度総会報告

2021年３月13日オンライン上で総会が開催され、提案のあった議案第１号から第５号までが提案通り承認され、議案６号については意見交換がなされた。なお、議案第２号に関連して、会計監査報告書が報告された。

議案第１号　2019年度事業報告

Ⅰ．研究会事業

1．第36回研究大会（2019年6月8日、長岡京市中央生涯学習センター）

研究大会テーマ：異常気象における水害問題を考える

開会挨拶　土屋正春（滋賀県立大学名誉教授・会長

基調講演１　山口弘誠（京都大学）：リアルタイム豪雨監視と気候変動下における豪雨の将来変化

基調講演２　磯部作（放送大学客員教授）：岡山県における西日本豪雨災害の状況と課題―ダム放流問題などを中心に

パネルディスカッション

コーディネイター　秋山道雄（滋賀県立大名誉教授）

パネリスト　山口弘誠
磯部作
吉越昭久（立命館大学名誉教授）
梶原健嗣（愛国学園大学）

テーマ報告　座長　吉岡泰亮（立命館大学）

平山奈央子・瀧健太郎（滋賀県立大学）：地域防災力の10年前の変化と考察–滋賀県内の全自治会を対象としたアンケート調査より

梶原健嗣：都市型水害とその政策的対応-戦後の歴史を振り返りながら

自由論題報告　座長　小幡範雄（立命館大学）

田島正廣（会員）：利根川の渇水と農業用水の節水対応

薬師寺恒紀（慶應大学学生）：東京都利島村での簡易水道事業運営の現状と課題

田渕直樹（会員）：溜池の決壊から住民の安全を守る–2017年九州北部豪雨の山の神溜池を事例に

秋山道雄：高梁川水系柳井原貯水池をめぐる論点–治水と利水の歴史的重層構造

閉会挨拶　若井郁次郎（モスクワ州国立大学）

懇親会

2. 夏季現地研究会（2019年8月29日～9月１日）

テーマ：台湾で今も活躍する環境型地下ダム–鳥居信平の設計思想に学ぶ

場　所：台湾南部・高雄とその周辺

3. 冬季研究会（2020年3月14日に予定、新型コロナ禍のため中止）

テーマ：新たな豪雨水害と地域社会のリスク増

報告予定者：宮本博司（元淀川水系流域委員会委員長）、梶原健嗣

Ⅱ. 学会誌事業

水資源・環境研究　32巻1号発行（2019年８月）

水資源・環境研究　32巻2号発行（2020年1月）特集：水道法改正と水道事業の今後

Ⅲ. 広報事業

ニューズレター79号（2019年4月26日）

ニューズレター80号（2020年1月15日）

Ⅳ. 表彰事業

水資源・環境学会賞

松岡勝実・金子由芳・飯孝行『災害復興の法と法曹–未来への政策的課題』成文堂

議案第2号　2019年度決算報告

収入の部			予算額	決算額	増減	備考
9	収入合計		2,698,446	2,633,817	-64,629	
1	会費		735,000	649,000	-86,000	
		法人会員	60,000	30,000	-30,000	法人会員1口
		普通会員	675,000	610,000	-65,000	普通会員122口
		学生会員	0	9,000	9,000	3口（滞納分）
2	販売収入	購読料収入	10,000	11,000	1,000	2口（消費税分の増加）
3	超過原稿料		0	12,000	12,000	
4	その他		1,953,446	1,961,817	8,371	寄付金
支出の部						
	支出合計		873,000	764,326	-108,674	
1	研究事業		30,000	33,230	3,230	
		1.1会場費	20,000	23,230	3,230	
		1.2郵送料	0	0	0	
		1.3消耗品	0	0	0	
		1.4交通費	10,000	0	-10,000	
		1.5その他	0	10,000	10,000	
2	学会誌事業		621,200	513,180	-108,020	
		2.1編集費	615,200	507,180	-108,020	
		内1号	307,600	203,580	-104,020	
		内2号	307,600	303,600	-4,000	
		2.2郵送料	0	0	0	
		2.3謝礼（査読）	6,000	6,000	0	
		2.4その他	0	0	0	
3	広報事業		133,000	119,184	-13,816	
		3.1郵送料	24,000	28,675	4,675	NL79,80郵送料
		3.2印刷費	24,000	12,230	-11,770	NL79,80印刷費
		3.3委託事業（HP）	80,000	76,700	-3,300	HP更新、サーバー借上げ
		34その他	5,000	1,579	-3,421	封筒、用紙等
4	事務局経費		88,800	98,732	9,932	
		4.1理事会会場費	20,000	15,000	-5,000	3回
		4.2郵送料	2,000	1,980	-20	
		4.3消耗品	0	576	576	
		4.4会員管理委託	64,800	66,000	1,200	@¥400×150
		4.5その他	2,000	15,176	13,176	表彰状作成
	当期純利益（収支差額）		1,825,446	1,869,491	44,045	
	前期繰越資産		729,074	729,074	0	
	当期繰越資産		2,554,520	2,598,565	44,045	

2019年度　水資源・環境学会会計監査報告書

私たち監事は、2019年度水資源・環境学会の会計監査を実施しましたので、次のとおり報告いたします。

会計監査では、会計帳簿及び関係書類の閲覧等必要な監査手続きを行い、帳票等の正確性を確かめました。その結果、2019年度決算案は収支状況を正しく反映しているものと認めます。

なお、監事が監査を行う際に、会計帳簿及び関係書類等について、誠実に精査する為の十分な時間が取れない状況につきましては、今後善処をお願い申し上げます。

2021年2月21日

監事　花田　眞理子（印省略）

監事　宮﨑　淳　（印省略）

議案第３号　2020年度事業計画

Ⅰ. 研究会事業
研究大会（新型コロナ禍のため中止）
夏季現地研究会（新型コロナ禍のため中止）
冬季研究会（2021年３月13日　Zoomによる開催）
テーマ：コロナ禍での海洋プラスチック汚染を考える
基調講演　原田禎夫（大阪商業大学）
コメント　マクティア・マリコ（Social Innovation Japan）
進行　伊藤達也（法政大学）
Ⅱ. 学会誌事業
水資源・環境研究33巻1号（2020年12月）
Ⅲ. 広報事業
ニューズレター81号（2020年5月10日）
ニューズレター82号（2021年2月10日）
Ⅳ. 表彰事業

収入の部			前年度予算額	予算額	増減	備考
	収入合計		2,698,446	697,500	-2,000,946	
1	会費		735,000	680,000	-55,000	
		法人会員	60,000	30,000	-30,000	法人会員1口
		個人会員	675,000	650,000	-25,000	普通会員130口
2	販売収入	購読料収入	10,000	5,500	-4,500	
3	超過原稿料		0	12,000	12,000	
4	その他		1,953,446	0	-1,953,446	
支出の部						
	支出合計		873,000	523,600	-349,400	
1	研究事業		30,000	30,000	0	
		1.1会場費	20,000	0	-20,000	
		1.2郵送料	0	0	0	
		1.3消耗品	0	0	0	
		1.4交通費	10,000	0	-10,000	
		1.5その他	0	30,000	30,000	
2	学会誌事業		621,200	307,600	-313,600	
		2.1編集費	615,200	307,600	-307,600	
		内1号	307,600	307,600	0	
		内2号	307,600		-307,600	
		2.2郵送料	0	0	0	
		2.3謝礼（査読）	6,000	0	-6,000	
		2.4その他	0	0	0	
3	広報事業		133,000	113,000	-20,000	
		3.1郵送料	24,000	24,000	0	NL81,82郵送料
		3.2印刷費	24,000	24,000	0	NL81,82印刷費
		3.3委託事業（HP）	80,000	60,000	-20,000	HP更新、サーバー借上げ
		34その他	5,000	5,000	0	封筒、用紙等
4	事務局経費		88,800	73,000	-15,800	
		4.1理事会会場費	20,000	0	-20,000	3回
		4.2郵送料	2,000	2,000	0	
		4.3消耗品	0	0	0	
		4.4会員管理委託	64,800	66,000	1,200	@¥400×150
		4.5その他	2,000	5,000	3,000	表彰状作成
	当期純利益（収支差額）		1,825,446	173,900	-1,651,546	
	前期繰越資産		729,074	2,598,565	1,869,491	
	当期繰越資産		2,554,520	2,772,465	217,945	

議案第４号　2020年度予算案

第５号議案　2020–2021年度役員候補（案）

理事　秋山道雄（滋賀県立大学名誉教授）
足立考之（（株）プラス設計開発）
＊飯岡宏之（横浜市水道局）
伊藤達也（法政大学）
大野智彦（金沢大学）
大橋浩（（株）地域社会研究所）
奥田進一（拓殖大学）
＊梶原健嗣（愛国学園大学）
小幡範雄（立命館大学）
高橋卓也（滋賀県立大学）
土屋正春　（滋賀県立大学名誉教授）
仲上健一（立命館大学）
西田一雄（㈱地域環境システム研究所）
仁連孝昭（成安造形大学客員教授）
＊野田岳仁（法政大学）
野村克己
原田禎夫（大阪商業大学）
平井拓也（滋賀フジクリーン（株））
＊平山奈央子（滋賀県立大学）
松優男（内外エンジニアリング（株））
松岡勝実（岩手大学）：
宮永健太郎（京都産業大学）：
三輪信哉（大阪学院大学）
矢嶋巌（神戸学院大学）
吉岡泰亮（立命館大学）
若井郁次郎（元大阪産業大学）
渡邊紹裕（熊本大学）

監事　花田真理子（大阪産業大学）
宮崎淳（創価大学）

＊　新規役員候補
無印　継続役員候補

第６号議案　学会の今後の運営について
意見交換

以上

【事務局からのお知らせ】

新しい学会会長に仲上健一会員が就任されました

2021年3月30日に開催された理事会において仲上健一会員が新たな会長に選出されました。仲上健一会員は学会創設時から当学会活動に貢献するとともに、立命館大学名誉教授、立命館アジア太平洋大学名誉教授であり、立命館大学OIC総合研究機構サステイナビリティ学研究センター上席研究員も勤めています。水資源および環境に関わる問題群にサステイナビリティの視点を生かしていただけることを期待し、社会と学会員にとって学会活動をさらに有意義なものするために力を合わせたいと思います。

また、長きにわたって会長を務められてきた土屋正春前会長に厚くお礼申し上げます。

学会誌最新号の案内
【第33巻1号(2020.12.24発行) 目次紹介】

【論説】

村民の自助努力での植林活動による村内環境改善と発展―中国山東省房幹村を事例に―

菊池真純 (東京大学)

【研究ノート】

1. 瀬戸内海流域住民の環境保全と市民活動についての意識

淺野敏久(広島大学)、森 保文(国立環境研究所)、前田恭伸(静岡大学)、犬塚裕雅 (かわさき市民活動センター)

2. 地域環境 NPO 会員の行政との関係志向の変化 ―NPO 法人「びわこ豊穣の郷」を事例として―

山添史郎(滋賀県日野町役場)、塚本利幸(福井県立大学)、霜浦森平(高知大学)、野田浩資(京都府立大学)

【書評】

公益社団法人 日本地下水学会編『地下水・湧水の疑問50』

大野智彦(金沢大学)

学 会 誌 原 稿 募 集

水資源・環境学会では学会誌「水資源・環境研究」への投稿を募集しております。
「水資源・環境研究」は、年2回、電子ジャーナルとしてJ-STAGE上で発行しており、会員の皆様に原稿を迅速に公開し、原稿の投稿機会を増やすことを目指しております。また、「論文(論説)」や「研究ノート」の他に、国内外における地域の話題や時事問題等をテーマにした「水環境フォーラム」、書評も受け付けております。

次々号(第34巻2号、2021年12月発行予定)の締め切りは、「論文(論説)」「研究ノート」は2021年7月31日、それ以外は2021年10月30日です。

水資源・環境学会
事務局長 仁連 孝昭

(学会事務局メールアドレス) info@jawre.org
(学会ウエブサイト内「学会誌」ページ) http://jawre.org/publication/index.html
※投稿規定、執筆要領は、上記サイト内に掲載しています。

■ **連絡先に変更はございませんか?**

転居などにともなう住所の変更で、学会からの郵便物が返送されて来る場合、登録いただいているE-mailアドレスがエラーで届かない場合が多数ございます。

所属先、連絡先などに変更がございましたら、下記学会事務局までご連絡下さい。

発行:水資源・環境学会
〒604-0022 京都市中京区室町通御池上る御池之町309番地 京都通信社内
http://www.jawre.org/ E-mail: info@jawre.org